

令和 4 年度

第 2 期湯前町総合戦略検証結果報告書

基本目標・具体的な施策に係る検証結果一覧

基本目標 1 力強い産業としごと創生

・ 数値目標

数値目標	基準値	R2 年度 (実績値)	R3 年度 (実績値)	R4 年度 (実績値)	R5 年度 (実績値)	R6 年度 (実績値)	目標値	進捗率
認定農業者数	50 人	57 人	57 人	51 人			50 人	102%
事業所への就業者数	976 人	—	1,099 人	—			1,000 人	—
内部検証	<p>① 新たに 1 名の新規認定があったが、高齢化等の理由で更新しない経営体が多く、減少数が上回り、減となった。</p> <p>② 就業を考えている町民向けに無料就職相談会（ジョブカフェ、若者サポートステーション）の実施や窓口への求人情報誌の設置、県が実施する求人誌への掲載募集など、就職を希望する町民に対しての支援を行った。就業者数については令和 8 年度実施する経済センサスにて反映する。</p>							
今後の方針	<p>① 認定農業者のメリット等の周知を積極的に行いながら、新規認定の推進を図る。</p> <p>② 人吉球磨 10 市町村や熊本県、民間団体、高等学校等と連携して雇用や人材不足などの課題を共有・解決するために球磨地域産業振興連絡会議が設立されたため、本町で行っている取り組みを継続しながら、広域的な取り組みも行っていく。</p>							

策定審議会意見

- 兼業農家でも主業農家でも関係なく交付を受けることができる補助金、さらに言うと、サラリーマンが退職されて農家になった場合に、その援助となる補助金があれば農業の活性化に対してよいのではないかと考える。

・重要業績評価指数

施策1 地域産業力の向上のための支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R4年度 (実績値)	R5年度 (実績値)	R6年度 (実績値)	目標値	進捗率
①認定農業者数	50人	57人	57人	51人			50人	102%
内部検証	新たに1名の新規認定があったが、高齢化により認定農業者のメリットがない等の理由で更新しない経営体が多く、減少数が上回り、減となった。							
今後の方針	認定農業者のメリット等の周知を積極的に図りながら、認定農業者の新規認定及び継続更新を目指す。							
②林業素材生産量	98,000 m ³	91,650 m ³	86,143 m ³	66,042 m ³			100,000 m ³	66%
内部検証	令和2年7月豪雨災害に伴う林道や作業道の復旧が長引いているのに加え、台風14号によって復旧途中であった作業道等が崩れるなどして、搬出できる限られた区域での素材生産となり、令和3年度と比べ取扱量が更に減少した。							
今後の方針	令和2年7月豪雨による林道・作業道復旧工事が令和3年度より開始しているが、完全復旧までには数年かかるため、素材生産においては、厳しい状況は続くが、復旧工事の進捗に合わせて素材生産量も回復すると思われる。また、経済状況では、ウッドショック等の影響により国産材の需要拡大も始まっているため、町有林の立木処分や林道・作業道の復旧工事により、林業事業者の事業確保を支援する。							
③先端設備導入計画認定件数	0件	1件	2件	2件			7件 5件(R4修正) (5年累計)	71.4%
内部検証	本制度を適応できる期間を令和5年3月31日までにしていたこともあり、事業者が活用しやすい状況にあった。そのため、令和3年度に引き続き令和4年度においても機械装置導入の計画認定が2件となり、令和4年度で目標値達成となった。							
今後の方針	令和5年4月以降も本制度が継続されることになったため、引き続き商工会等の関係機関との連携を図りながら、町内事業者への制度周知を行っていく。							

④小規模事業者持続化補助金採択件数	1件	1件	6件	0件			23件 (5年累計)	30.4%
内部検証	昨年度、国の小規模事業者持続化補助金に2事業者が採択され本年度に町補助金を申請予定であったが、国からの交付確定が4月以降になったため本年度中の町補助金の交付ができなく、採択は0件となった。							
今後の方針	補助対象者に対し漏れなく補助金を交付するために、商工会と連携して制度の周知を行っていく。							
⑤新規就農者数	0人	3人	3人	3人			10人 9人 (R4修正) 5人 (R3修正) (※5年累計)	90%
内部検証	親元就農者2人と新規参入者1人の計3人の実績となっている。直近3年間は、新規就農者数が順調に推移してきたが、令和5年度以降の見通しが非常に厳しい状況である。							
今後の方針	新規就農や後継者対策に係る各種補助金の周知を図りながら、新規就農者の確保に努めたい。							
⑥商工業者承継者数	0人	1人	2人	1人			8人 (5年累計)	50%
内部検証	事業承継に関する相談会への案内や事業承継サポート事業の周知を行ったことで、事業者へ制度の周知が図れた。また、湯前町事業承継サポート事業の申請が2件あった。申請のあった2件については約10年後に事業承継を検討されているため、制度の周知徹底をはかることで事業承継の促進をすることができたように思う。							
今後の方針	商工会と連携して湯前町事業承継サポート事業の周知を継続して行い、事業承継を検討している方への後押しを行っていく。							

策定審議会意見

- ・農家を増やすのではなく、減らさないといった方針で事業を進めていったほうがよいのではないかと考える。

施策 2 安定した雇用創出のための支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	R2 年度 (実績値)	R3 年度 (実績値)	R4 年度 (実績値)	R5 年度 (実績値)	R6 年度 (実績値)	目標値	進捗率
①創業者数 (農林商工業)	1 人	0 人	1 人	0 人			5 人 (5 年累計)	20%
内部検証	令和 4 年度までは新型コロナウイルス感染症の影響により、創業に踏み切れなかった方が多かったと思われる。また、コロナ対策事業に注力したため、創業希望者と空き店舗所有者のマッチングや空き店舗改修や法人化のための支援事業には取り組むことができなかった。							
今後の方針	アフターコロナにより経済の動きも活発化しているため、創業支援の相談窓口等を充実させるための検討を行い、商工会等の関係機関と連携して創業支援を行うとともに、空き店舗活用のための支援にも取り組む。							
②若者雇用促進事業の 交付件数	—	—	—	—			20 件 (5 年累計)	—
内部検証	コロナ対策事業に注力したため、事業に取り組むことができなかった。							
今後の方針	今後、事業内容について財源確保策などの検討を行う。							

策定審議会意見

- ・ 今後の方針にそって事業を進め、目標値達成に向けて取り組んでもらいたい。

議会意見

- ・ 農業の担い手への積極的な支援を行い、目標達成に向けて取り組まれない。

基本目標 2 誇れる・選ばれるまち創生

・数値目標

数値目標	基準値	R2 年度 (実績値)	R3 年度 (実績値)	R4 年度 (実績値)	R5 年度 (実績値)	R6 年度 (実績値)	目標値	進捗率
社会増減数	△11 人	14 人	30 人	△31 人			31 人	0%
湯前町に住みたい割合 (アンケート結果)	55.5%	56.0%	—	49.5%			60.0%	82.5%
内部検証	<p>社会増減数は転入の減少と転出の増加が重なり、令和 3 年度から大きく減少した。特に全体で転入が 46 人減少しており、主に 20 歳代から 30 歳代の転入が大幅に減少している。</p> <p>要因としては IU ターンの減少が大きく令和 2 年 7 月豪雨の影響による転入が落ち着いたことも関係しているが、婚姻による転入や奥さんの地元へ転入するいわゆる嫁ターンも減少していた。</p> <p>湯前町に住みたい割合については、令和 2 年度から減少してしまった。</p> <p>未回答が 41.1%と非常に高くアンケートの記載方法がわかりにくかったこと、「住みたい」と「住みたくない」の 2 つの選択肢しかなかったことで未回答の割合が高かったと考えられる。</p>							
今後の方針	<p>社会増減数の減少については、依然として住む所の問い合わせが少なくないため、現在進んでいる住宅、分譲地の整備や住宅に対する支援を行うことで、一定の効果があると思われる。</p> <p>アンケートに関しては設問や回答方法の改善を行い、正確に意見が拾えるようにしたい。また、住民幸福度をあげる施策の検討材料として、アンケート以外に座談会などの開催を検討していきたい。</p>							
策定審議会意見								
<p>・近隣の自治体などはスポーツ関係で非常に賑わっている。本町においても、湯前まんが美術館などの本町にしかない強みを活かしてまちづくりに取り組んでいただきたい。</p>								

・重要業績評価指標

施策1 魅力づくりと発信

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R4年度 (実績値)	R5年度 (実績値)	R6年度 (実績値)	目標値	進捗率
①観光入込客数	206,880人	90,840人	110,406人	120,300人			220,000人	54.6%
内部検証	With コロナの下、感染対策を講じながら3年ぶりの漫画フェスタや新規イベントであるロゲイニングを開催するなど、アウトドア志向のニーズに応えるためキャンプ場専用のホームページや予約サイトの導入などの情報発信に努めた。また、自転車競技大会やRVイベント・バイカーズイベントなど外部団体の施設利用も再開されるなど、観光入込客数の増加に繋がった。							
今後の方針	グリーンパレスやレールウイングを活用したイベント企画やSNSでの情報発信など、新たな観光客やリピーターの誘客を図る。令和7年のくま川鉄道全線開通に向けてレールウイングの改修を順次行い、安全性と機能面を強化した利用者に優しい施設づくりを目指す。							
②宿泊者数	7,849人	3,813人	5,167人	7,307人			8,567人	85.2%
内部検証	コロナの影響も残りつつ、全国旅行支援制度を活用した観光客や町内外で開催されたイベントの際の宿泊などで増加することができた。							
今後の方針	ホームページやSNSを常に更新し、最新情報を発信しながら安定したサービスの提供を図ることができるよう支援していく。							
③関係人口数	1,740人	2,370人	2,124人	2,093人			2,201人	95%
内部検証	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、協働の森づくり活動の縮小などで関係人口の増加にはつながらなかった。ふるさと納税に関しても、人気の返礼品の供給停止による機会損失や目玉商品の不足といった要因で件数が伸び悩んだ。							
今後の方針	令和5年度はアフターコロナの動きが加速してくるので、今まで築いてきた関係を継続させる事と、ワーケーションや大学などとの新たな取り組みなどを行っていききたい。また、ふるさと納税に関しては令和5年度から中間業者の変更を行い新たな返礼品の開発を推進していく。							

④ホームページ閲覧者数	196,800 ページビュー	1,119,501 ページビュー	1,602,120 ページビュー	2,254,420 ページビュー			2,800,000 ページビュー 2,100,000 ページビュー(R4修正) 1,200,000 ページビュー(R3修正) 290,000 ページビュー(R2修正)	80%
内部検証	記事の新規登録に加え、更新が増加したことで、閲覧者数が増えたものと思われる。							
今後の方針	記事の登録・更新だけでなく、全体的に不足している情報を掲載するとともに、緊急時にいち早く情報を発信するよう全課に徹底させる。またカレンダーの閲覧数が多いので、イベントやお知らせとリンクするなどして閲覧者数の増加に努める。							
⑤SNS登録者数	—	223 ユーザー	540 ユーザー	737 ユーザー			1,300 ユーザー	56.6%
内部検証	SNS登録への呼びかけが少なかったことで、登録者数が令和3年度から伸び悩んだものと思われる。							
今後の方針	SNSの登録方法を再度HPや旬報へ掲載し、登録の呼びかけを行う。また発信方法や必要情報を再検討し、発信量を増やすことで、新規の登録者を取り入れる。							
⑥若者会議による施策や事業の提案数	—	—	0件	1件			5件 (5年累計)	20%
内部検証	令和4年度は会議を開催し、最終的に町長に「多目的コンテナハウス群整備について」という町内外の人が集える場所の創出事業1件の提案をすることができた。事業の目的である若者の町政参画についてはまだ達成できていないと感じたが、町長と直接話げできたことはよかった。という声も聞かれたため、引き続き町政に興味をもってもらえるよう参加を促していきたい。また、参加者のモチベーションを年間通して維持するような進行ができず、会議の時間帯など課題を多く感じた。							
今後の方針	令和4年度の課題を意識しながら、参加者が参加しやすい時間帯や回数を検討し、より多くの方に参加していただけるように声掛けや周知を行っていく。							

⑦まんの町の町としての充実度	—	—	—	60%			80%	75%
内部検証	令和4年度はまんがフェスタの際と湯前まんが美術館でアンケートを実施した。美術館ではあまり回答が得られなかったため、まんがフェスタ当日の意見が多くなっており、すべてが肯定的な意見となっている。また、まんが美術館に地域おこし協力隊2名を採用し、漫画を軸としたコミュニティ作りやまんが美術館の周知を積極的に行っている。しかし、まんがへの町の取り組みが充実しているとの回答は6割にとどまったため、魅力発信や新たな展開が必要だと考えられる。							
今後の方針	新型コロナウイルスの感染症の状況を見ながら、イベントや関連施設でアンケートを実施していく。また、デジタルアーカイブやARなど最新の技術を使った取り組みや、人気のコンテンツを活用したファンの取り込みなど県や近隣町村とも連携しながら、新たな展開を試みていきたい。							
⑧入館者数 (まんが美術館・図書館)	12,169人	2,014人	1,487人	4,614人			13,210人	34.9%
内部検証	まんが美術館では、令和4年度は年間を通して開館できたものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響が長引いており、観光客は少しずつ増えてきたものの、目標を大きく下回る来館者数であった。							
今後の方針	新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、観光客の動きも戻ってくるが見込まれるため、感染対策は一部継続（消毒、検温）しながらではあるが通常営業を行っていく。また、まんが美術館事業を専門とする地域おこし協力隊2人の協力のもと、出前展示など他の美術館等との連携を行い、湯前町を知ってもらい来館へつなげていく。							

定審議会意見

・若者会議について、今後の方針に「参加者が参加しやすい時間帯や回数を検討し」とあるため、Zoom等のオンラインでの参加者が参加しやすい方法で開催を検討してもよいのではないかと考える。

施策 2 移住・定住の促進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	R2 年度 (実績値)	R3 年度 (実績値)	R4 年度 (実績値)	R5 年度 (実績値)	R6 年度 (実績値)	目標値	進捗率
①転入者数 (住民基本台帳)	75 人	108 人	121 人	75 人			148 人	50.6%
内部検証	<p>社会増減数でも触れたが-46 人と大幅に減少している。主に 20 歳代から 30 歳代の転入が大幅に減少している。要因としては IU ターンの減少が大きく令和 2 年 7 月豪雨の影響による転入が落ち着いたことも関係しているが、婚姻による転入や奥さんの地元へ転入するいわゆる嫁ターンも減少していた</p>							
今後の方針	<p>子育て世帯の転入を促すために、子育て関連施策の充実と情報発信の強化を図っていきたい。また、子育て世帯向けの住宅を建設するなど住環境についても整備していく。</p>							

策定審議会意見

- ・ 今後の方針にそって事業を進め、目標値達成に向けて取り組んでもらいたい。

施策3 安全・安心で快適な住みよいまちづくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R4年度 (実績値)	R5年度 (実績値)	R6年度 (実績値)	目標値	進捗率
①防災リーダー育成 (防災士の人数)	4人	3人	0人	2人			14人 (5年累計)	35.7%
内部検証	新型コロナウイルス感染症の影響により、自主防災組織の方々に対し講習の受講を案内することを控えたが、防災担当職員2名にて受講し防災士を取得した。							
今後の方針	令和5年度においては、各地区自主防災組織の方々には防災士の講習及び試験のご案内を行い10名の防災士育成を目指すこととしている。							
②健康寿命	男性 67.5 歳	男性 67.0 歳	男性 75.8 歳 (※参考値)	男性 77.3 歳 (※参考値)			男性 70.4 歳	—
	女性 74.0 歳	女性 72.4 歳	女性 84.8 歳 (※参考値)	女性 85.6 歳 (※参考値)			女性 75.0 歳	—
内部検証	<p>健康寿命を算出するアンケートを実施していないため、KDB(国保データベース)システムの要介護2以上を健康ではない状態とする「日常生活動作が自立している期間の平均」を参考にしている。</p> <p>令和3年度から令和4年度では伸びがみられたが、男性に関しては県80.4歳、国80.1歳と比べて下回っている。男性の参加の機会を増やすために令和3年度から始まった男性限定の通いの場(プラチナクラブ)参加者数は令和4年度は10名と令和3年度から2名増加した。</p> <p>令和4年度は日常生活動作の自立期間の延長のために各通いの場の参加者数を増やすことを目標としていたが、令和3年度の参加人数267人、から令和4年度は参加人数247人と減少した。理由としては、コロナ禍で休止した期間が続き、休止前まで参加されていた方で体調を崩し参加できない方や活動が再開したものの、通いの場に行くことを躊躇される方がいたこと、新規の参加者が増えなかったことが考えられる。</p>							
今後の方針	<p>県と国の健康寿命を下回る男性は今後も男性限定の通いの場や各通いの場への参加者数の増加に努めていく。また、令和5年度から実施する高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業で、複数の慢性疾患を持ち、フレイル状態に陥りやすい高齢者に対し、ひとりひとりの状況に応じたきめ細やかな支援を行っていく。</p> <p>また、国が示す健康寿命の算出は3,000人以上のデータが必要で、本町は算定の基準に適さないため、湯前町健康増進計画の見直しと併せて算出方法の検討を行いたい。</p>							

③地域コミュニティ活動参加者数	6,377人	2,420人	5,401人	5,047人			8,800人	57.3%
内部検証	新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、体育施設の利用者を制限するなどの措置を行ったが、各団体の活動や地域活性化企業人事業の実施により、新しい生活スタイル様式実践のもとスポーツ等提供の機会を創出できた。							
今後の方針	新型コロナウイルス感染防止対策を実施しながら、地域住民の健康づくりのため、住民のニーズを把握し、各団体及び地域活性化企業人事業と連携しながら事業を展開していく。							
④町営住宅建設戸数	166戸 (単身向け6戸)	166戸 (単身向け6戸)	164戸 (単身向け6戸)	159戸 (単身向け6戸)			172戸 (単身向け6戸)	92.4%
内部検証	令和4年度は老朽化し危険性のある4戸を解体し、下永野住宅の払い下げを行ったため、令和3年度より5戸の減となった。町営住宅への需要もあり、新たな住宅建設が必要。							
今後の方針	令和5年度は新規住宅4戸の建設に着手しており、更に2戸の新規住宅建設に向けて準備を進める。							
⑤個人住宅建設戸数	6戸	5戸	7戸	10戸			10戸	100%
内部検証	令和3年度に引き続き、建設戸数を増加させることができた。球磨スギ・ヒノキ需要促進事業の新築住宅申請件数も4件と全体の総新築件数の約半分で活用いただいたことから、施策の効果があったと思われる。							
今後の方針	球磨スギ・ヒノキ需要促進事業が令和4年度までの事業となっているが、令和5年度が住宅施策の全体的な見直しの年となっているため、球磨スギ・ヒノキ需要促進事業に代わる施策を検討していき建築戸数の増加に努めたい。							

策定審議会意見

・近隣の自治体では、住宅がないといった話を聞いている。そういった中で、令和5年度にも新規住宅4戸の建設が予定されているとのことであり、こういった取り組みはどんどん進めていってもらったほうがよいと考える。

議会意見

- ・移住希望者に向け、ホームページをもっと充実させるべきではないか。
- ・住宅供給の施策だけでなく、宅地分譲にも取り組んでもらいたい。
- ・住宅在住者だけでなく、町外の本町出身者から意見をもらうことも検討していただきたい。
- ・若者会議に子ども議会での内容を取り入れてはどうか。

基本目標 3 未来を担う若い世代の希望創生

・数値目標

数値目標	基準値	R2 年度 (実績値)	R3 年度 (実績値)	R4 年度 (実績値)	R5 年度 (実績値)	R6 年度 (実績値)	目標値	進捗率
年少人口率	11.4%	10.4% (住基台帳数値の ため参考)	10.8%	9.8% (住基台帳数値の ため参考)			11.5%	85.2%
内部検証	令和 3 年度の数値から 1%もの減少となっており、主な要因としては出生数の減少が考えられる。ただし、令和 3 年度が国勢調査による実績値であるのに対して、令和 4 年度は住基台帳から算出した数値であるため、令和 4 年度の数値についても国の調査によるものであった場合は、9.8%よりも増加すると思われる。							
今後の方針	出生数の増加を推進するだけでなく、子育て世代の転入を促して年少人口率の増加を目指す。							

策定審議会意見

- ・今後の方針にそって事業を進め、目標値達成に向けて取り組んでもらいたい。

・重要業績評価指標

施策1 子どもを安心して生み育てられる環境の整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	R2年度 (実績値)	R3年度 (実績値)	R4年度 (実績値)	R5年度 (実績値)	R6年度 (実績値)	目標値	進捗率
①出会いの場への参加者数	2人	—	—	4人			50名 (5年累計)	8%
内部検証	令和4年度に湯前町で婚活イベントを実施したところ4名の参加があった。参加をされた4名全員がカップル成立となった。また、イベント全体でのカップル成立率も75%と非常に高くアンケートによる満足度も高かった。							
今後の方針	今後も出会いの場を創出するためにイベントを実施していく。その際には対面でのイベントに限定するのではなく、オンライン環境を利用するなど、開催形式を問わず、参加しやすい環境を心がけ参加者を集めていきたい。							
②子育て世帯数	250世帯	214世帯	237世帯	224世帯			250世帯	89.6%
内部検証	世帯数については、令和3年度より微減しており、子ども数も微減している。 湯前町子ども・子育て支援事業計画に基づく各種支援の継続の実施及び、国の臨時特別給付金事業等により子育て世帯の経済的負担軽減に寄与することができた。							
今後の方針	湯前町子ども子育て支援事業計画等に基づいた主要事業の継続をしつつ、検証結果等を令和5年度以降の取組に繋げる。こども家庭庁が新設されたことにより、子育て支援の加速化が図られるため、新規事業等については漏れなく取り組む方向で準備を進める。							

策定審議会意見

・出会いの場への参加者数について、婚活イベントに本町から4名の参加があり、その4名ともにカップル成立ということで町にとって非常に明るい話題である。今後もどんどん進めていてもらいたい。

施策 2 湯前ならではの特色ある教育の展開

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	R2 年度 (実績値)	R3 年度 (実績値)	R4 年度 (実績値)	R5 年度 (実績値)	R6 年度 (実績値)	目標値	進捗率
①小中一貫教育に対する保護者の満足度	—	73%	74%	78.7%			80% 75%(R4 修正)	98.3%
内部検証	With コロナで小中学校連携での行事も再開し、保護者満足度も対前年増、目標値達成となった。							
今後の方針	従前の連携行事等の拡充も検討しながら、小中学校一連でのふるさと教育構成等により、小中一貫教育と地域学校協働活動の連動充実を図る。							
②地域学校協働活動参加人数	—	195 人	709 人	902 人			1,000 人 600 人(R4 修正)	90.2%
内部検証	生徒が地域に出向く形式での活動も新たな活動として実施されている。							
今後の方針	地域学校協働活動としては、新型コロナの影響も低減し、順調に実施されている。児童生徒の活動状況を表現できる目標値に後期計画策定時に変更することを検討する。							

策定審議会意見

- ・ 今後の方針にそって事業を進め、目標値達成に向けて取り組んでもらいたい。

議会意見

出生率の減少要因を追求し、今後の施策に反映させていただきたい。